

コリント
第一

14

「神の愛をこそ
味わい知ろう」

コリント人への手紙 I 13章 神の愛の賛歌

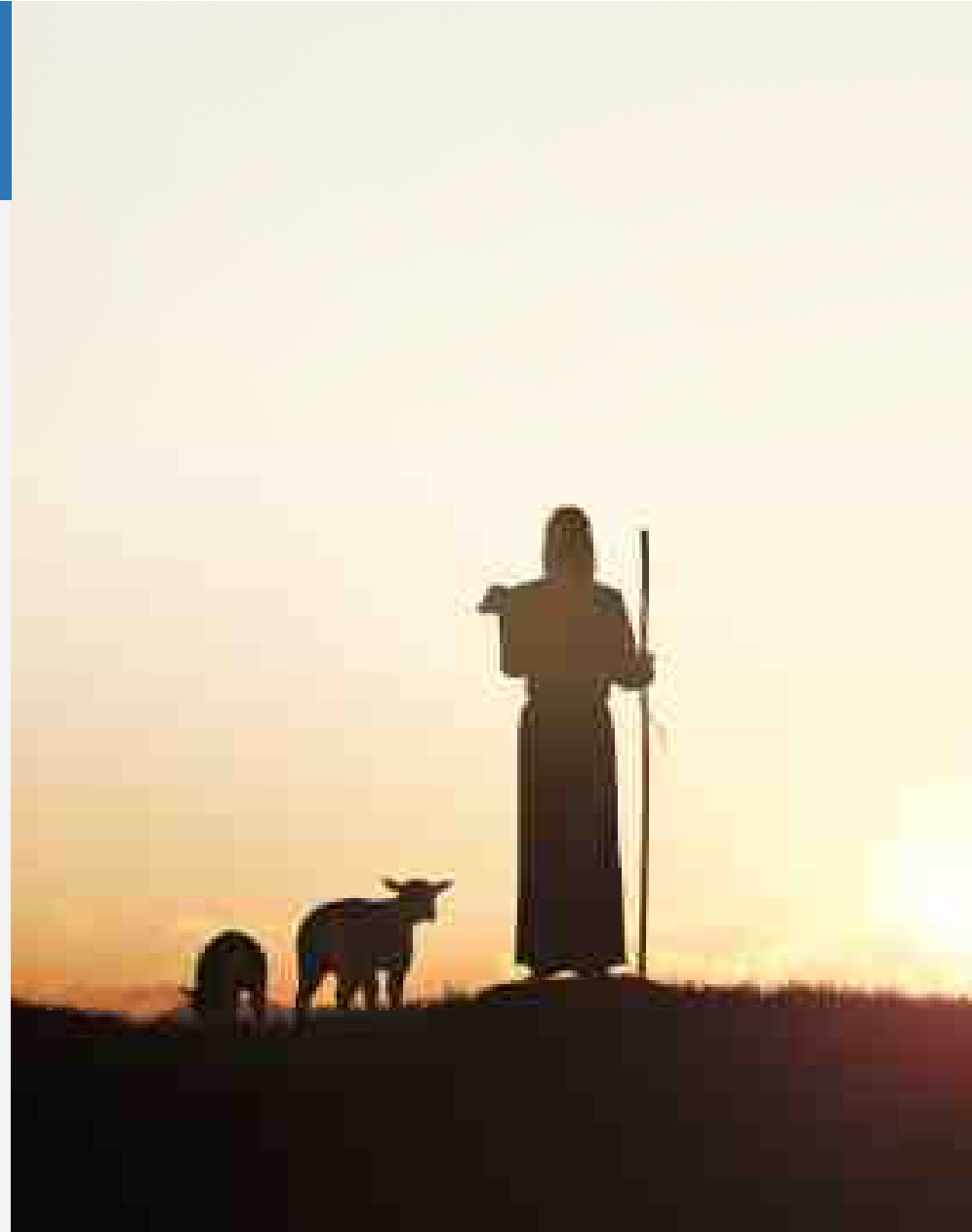
アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 愛がなければ 13章
- II. イスラエルへの神の愛
- III. まとめと適用

究極の愛のかたち

福音を告げ知らせよう

本日の主題は、神の愛



コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ
この後、コリントを再訪
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す
キリストの体なる一致を求める



海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- 神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。

信仰者の自由をはき違えた放縦が問題に



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縱の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ		16:13~24



- 秩序
- 秩序
- 秩序
- 性
- 性
- 偶像
- 秩序
- 偶像
- 性
- 秩序
- 秩序
- 秩序

聖霊の賜物をめぐる議論

- **聖霊の賜物**とは、福音を信じたすべての信者に与えられているもの。
キリストのからだの一部として与えられた、**奉仕のための賜物**。
- コリントの教会には、多様な聖霊の賜物を持った人がいた。
預言、教師、癒やし、異言…。
彼らの過ちは、賜物を誇るようになっていたこと。
- パウロは、信者は皆、キリストのからだの一部であり、優劣はなく、共に苦しみ、喜ぶのだと、クリスチャンの奉仕の本質を伝えた。

聖霊の賜物をめぐる議論の結論

「あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。
私は今、はるかにまさる道を示しましょう。1コリント12:31」

“よりすぐれた賜物” “はるかにまさる道” とは？

そして、13章、**愛**の賛歌がささげられる。



I. 愛がなければ

Iコリント13章

【異言さえも】 | コリント13:1

たとえ私が人の異言*や御使いの異言で話しても、**愛**がなければ、騒がしいどら*や、うるさいシンバル*と同じです。

*自分の知らない言葉で語る聖霊の賜物

御使いの異言は、御使いの言葉で話すこと。

*イスラエルの礼拝でも用いられた(詩150:5)

■コリント教会では、公の礼拝でも異言が盛んに語られていた。

聖霊の賜物と愛の関係が語られていく!!



【預言、信仰さえも】 | コリント13:2

たとえ私が預言の賜物*を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰*を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。

*神の言葉を完全に正しく告げる賜物

*山をも動かす完全な信仰(マタイ21:21)

➔前提は、御心との完全な一致。



【分け与え引き渡しても】 | コリント13:3

たとえ私が持っている物のすべてを分け与えて*も、たとえ私のからだを引き渡して誇る*ことになっても、**愛**がなければ、何の役にも立ちません。

*慈善、分け与える賜物

*信仰、奉仕の賜物



【愛の本質】 | コリント13:4~6

愛は寛容であり、**愛**は親切です。また人をねたみません。**愛**は自慢せず、高慢になりません。

礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。

■ 愛は必ず、御霊の実を結ぶ。

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。ガラテヤ 5:22~23」

■ 愛 → 救い → 聖霊の賜物 → 御霊の実 → 愛

An illustration of a woman with short dark hair, wearing a black top with a red heart on the chest. She has her eyes closed and a gentle expression. The background is light blue with some green foliage on the sides.

愛から出て
愛に至る

【愛の過去・現在】 | コリント13:7~8

すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、
すべてを忍びます。

愛は決して絶えることはありません。預言なら
すたれます。異言ならやみます。知識ならすた
れます。

- 愛は、あらゆる苦難を忍耐し、決して希望を
失うことはない。
- 愛は、時も次元も超越した永遠のもの

永遠の愛が忍耐と希望とをもって民を導いた



【愛の将来】 | コリント13:9~10

私たちが知るのとは一部分、預言するのも一部分であり、**完全なもの**が現れたら、**部分的なもの**はすたれるのです。

- 愛について、この時代に知り得るのは一部。
- 完全な愛が世界に現れる時、部分的な愛はすたれる。
 - ➔ ここから内容は、終末論に入っている。

永遠の愛が完全に現れる時が来る



【愛は成長を促す】 | コリント13:11

私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。

- 幼子が知る親の愛はごく一部。
大人になってはじめて分かる親の愛がある。
- 愛についての今の私たちの知識、体験は、幼子のもの、ほんの一部に過ぎない。
- 今の状態にとどまらず、信仰的に成長していくことが求められている。

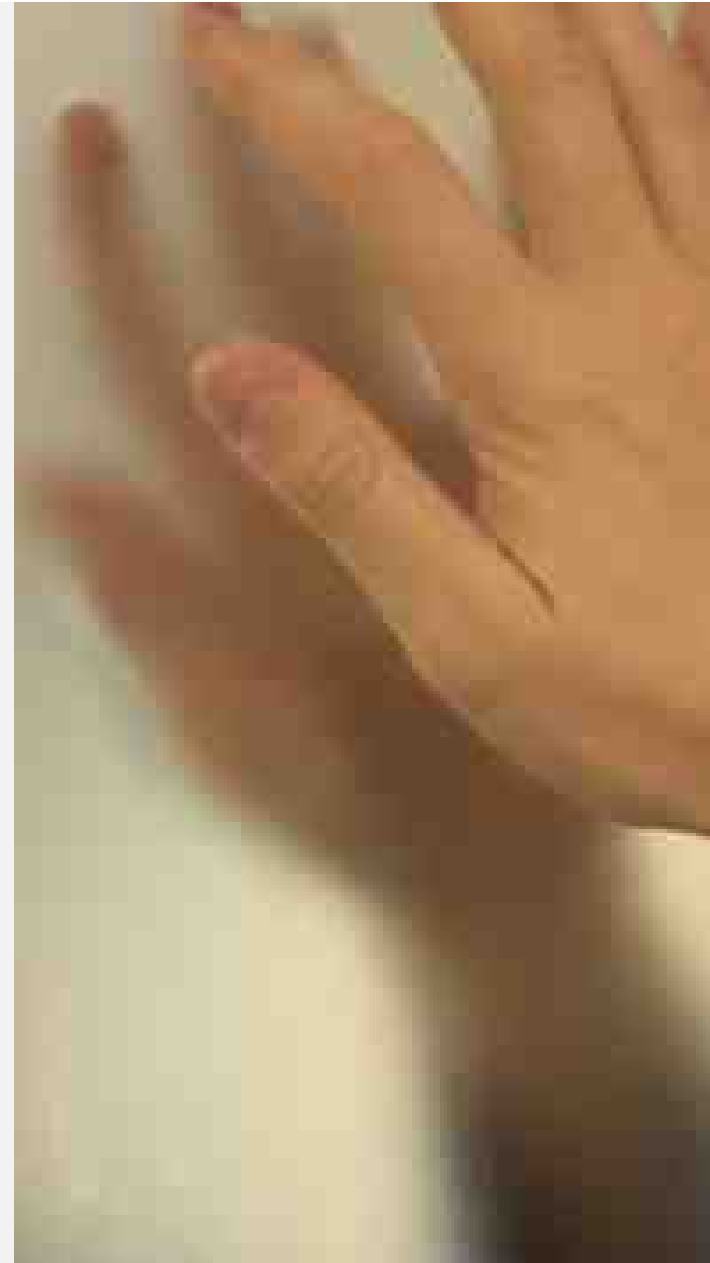


【鏡のように】 | コリント13:12

今、私たちは鏡*にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。

*この時代の鏡は、金属を磨いたもの。

■ 顔と顔を合わせて
完全に主を知る時がくる。



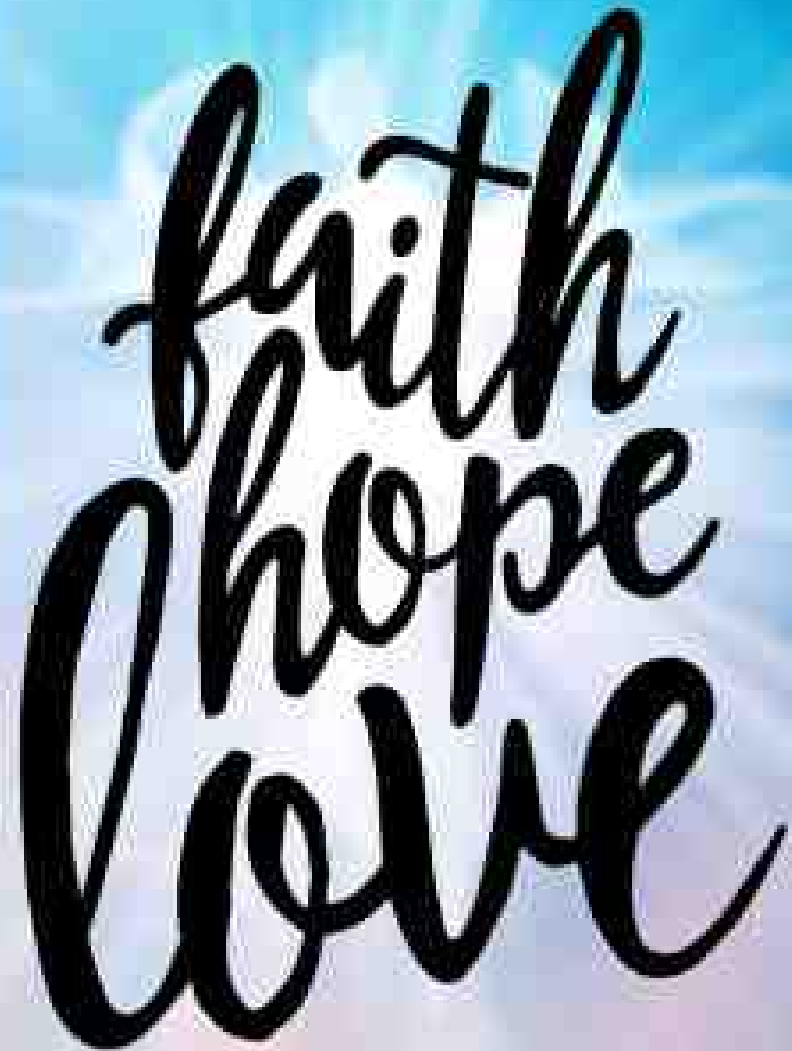
【信仰・希望・愛】 | コリント13:13

こういうわけで、いつまでも残るのは**信仰**と**希望**と**愛**、これら三つです。その中で一番すぐれているのは**愛**です。

■ 神の約束を土台とした、**信仰**。

■ 神の約束に基づく、**希望**

■ 神の約束の永遠の礎が、神の**愛**。



faith
hope
love



Ⅱ. イスラエルへの神の愛

愛の訳語について考えよう

- 新約聖書で、愛は、おもにアガペー(ギリシャ語)が用いられている。
→ ここからアガペーが、無償の愛を指す語に用いられるように。
- 七十人訳(ギリシャ語訳旧約聖書)で、アガペーがすでに採用済み。
ヘブル語の**アハブ**(愛する)**ヘセッド**(恵み、愛)の訳語が、アガペー。
→ ギリシャ人にない概念をどう伝えるか、苦心の結果の採用。
- そもそも偶像礼拝文化のギリシャ語に、唯一の神の愛を示す語が？
日本語の“愛”も、訳語としては不完全。問題ありとよく指摘される。

訳語の限界を抑えた上で、旧約聖書から神の愛を知ろう!!

【神の愛から始まった】 申命記 4:37

主はあなたの父祖たちを**愛**し、その後の子孫を選んでいたので、ご臨在の中、大いなる力をもってあなたをエジプトから導き出された。

■主がアブラハムを選び、約束された。

①子孫の繁栄、②土地の授与

③メシアによる救い

■主がイスラエルを**愛**し、約束の**恵み**のゆえ、エジプトから救い出された。



すべては神の約束に基づく恵み・愛から始まった!!

【神の選びの理由】 申命記7:7～8

【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。

しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られた*から、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。



ヘセッド・愛は
約束に基づく恵み

神の一方的な愛ゆえの選び。民に理由はない。

【愛の戒め】 申命記 6:5,5:10

あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

- イスラエルを愛された主は、イスラエルに主を愛することを求められた。
- 主を愛し、主の命令を守るならば守りがあり、背くならば、懲らしめがあると告げられた。

主を愛する者は、主の命令を守る



…しかし、イスラエルは、神に背いた

神に背いたイスラエルへの愛ゆえの神の嘆き

「わたしの民は頑なにわたしに背いている。

いと高き方に呼ばれても、ともにあがめようとはしない。

エフライムよ。

わたしはどうしてあなたを引き渡すことができるだろうか。

イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができるだろうか。

どうしてあなたをアダマのように引き渡すことができるだろうか。

どうしてあなたをツェボイムのようにすることができるだろうか。

わたしの心はわたしのうちで沸き返り、わたしはあわれみで胸が

熱くなっている。ホセア書11:7～8」

【神への背きの末に】 |

■背教のイスラエルに、神は預言者を送り、
間近に迫った厳しい裁きを告げた。

しかし、神は民を見捨ててはおられなかった。

★イザヤ書43:4～5

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。」

回復の時は来る



愛の神のイスラエルの回復の約束

エレミヤ書31:3~4

【主】は遠くから私に現れた。

「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。

それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた。

おとめイスラエルよ。再びわたしはあなたを建て直し、

あなたは建て直される。再びあなたはタンバリンで身を飾り、

喜び踊る者たちの輪に入る。

エレミヤ書31:20～22

エフライムは、わたしの大切な子、喜びの子なのか。わたしは彼を責めるたびに、ますます彼のことを思い起こすようになる。それゆえ、わたしのはらわたは彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまずにはいられない。 — 【主】のことば —

あなたは自分のために標識を立てて道しるべを置き、あなたが歩んだ道の大路に心を留めよ。おとめイスラエルよ、帰れ。これらの、あなたの町に帰れ。

背信の娘よ、いつまで迷い歩くのか。【主】はこの地に、一つの新しいことを創造される。女の優しさが一人の勇士を包む。」

背信の娘よ、いつまで迷い歩くのか。【主】はこの地に、一つの新しいことを創造される。女の優しさが一人の勇士を包む。

“女の優しさが一人の勇士を包む。”

“一人の女が一人の男を抱こう。(第三版)”

**愛の神による新しい創造とは、メシアの誕生
主ご自身が人となって来られる**

新しい契約の提示

エレミヤ書31:31～32

見よ、その時代が来る — 【主】 のことば—。

そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、
新しい契約を結ぶ。

その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、
エジプトの地から導き出した日に、

彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、
彼らはわたしの契約を破った

— 【主】 のことば—。

新しい契約の提示

エレミヤ31:33～34

これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである
—【主】のことば—。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き
彼らの心にこれを書き記す。

わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、

『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の
低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ

—【主】のことば—。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を
思い起こさないからだ。」

新しい契約の主イエス・キリスト

マタイ福音書26:26~28

また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。

「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。

これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの**契約の血**です。」

神の愛の極み、主の恵み約束の完全な成就が、
人となられた主イエス・キリスト

「主イエス・キリストは、
私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、
死を打ち破って復活された」

この福音が、人類に与えられた最大の愛のしるし



IV. まとめと適用 究極の愛のかたち 福音を告げ知らせよう

パウロが伝えたかった最大のもの

- 人間的な価値判断を教会に持ち込んで分裂し、自由を強調して墮落を招き、賜物を誇って、優劣を競い合っていたコリントの人々。
- パウロの言う「はるかにまさる道」は、彼らも知っていたはずのもの。すなわち、**主イエス・キリスト**によって示された史上最高の愛の道。
- 見失った一つの大きな原因は、異邦人信者が主流になっていたこと。彼らは、イスラエルに示された愛の大きさを知らず、真実に求める姿勢にも欠けていた。

イスラエルの歴史を知らずして、神の真の愛は知り得ない!!

契約に基づく恵みこそが、神の愛

- 主は、一方的にイスラエルを選び、**恵み**と**愛**を約束された。
背教のイスラエルを厳しく懲らしめても、**主の愛**は変わらなかった。
- 主イエスは、イスラエルの約束のメシアとして来られ、十字架で贖いの業を成し遂げられ、復活し、天に昇られた。
福音をただ信じて、**救いの約束**に接ぎ木されたのが異邦人の私たち。
- 一方的な約束に基づく**恵み(ヘセツド)**こそが、神の**愛**。
私たちの永遠の救いの保証は、主の約束に基づく**恵み**の上にある。

神の約束を深く知ることなくして、愛が深まることはない!!

聖書に記された、神の約束への学びを深め

日々、神の約束に堅く立ち

約束に基づく神の恵み、神の愛を

さらに深く味わい知って行こう。

コリント人への手紙13章1～13節

コリント人への手紙13:1～3

たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどらや、うるさいシンバルと同じです。

たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。

たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

コリント人への手紙13:4~7

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。

愛は自慢せず、高慢になりません。

礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、
人がした悪を心に留めず、

不正を喜ばずに、真理を喜びます。

すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

コリント人への手紙13:8～10

愛は決して絶えることはありません。預言ならすたれます。
異言ならやみます。知識ならすたれます。

私たちが知るのとは一部分、預言するのも一部分であり、
完全なものが現れたら、部分的なものはずたれるのです。

コリント人への手紙13:11~12

私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。

今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。

今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。

コリント人への手紙13:13

こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、
これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主イエスこそ、私たちに与えられた最大の愛にほかなりません。
主イエスが再び来られ、主の愛のすべてを知らされるのを待ち望みます。最大の愛のしるしである福音を、よろこびをもって
告げ知らせる者として、世のただ中に遣(つか)わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」